

令和5年度

施政方針



本日ここに、令和5年深谷市議会第1回定例会を招集いたしましたところ、議員各位にはご参会を賜り、令和5年度一般会計当初予算案をはじめ、市政の重要案件についてご審議をいただきますことに、心から感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、国際情勢ではロシアによるウクライナ軍事侵略が始まり、すでに1年が経とうとしております。

今、私たちがこうしている間にも、無差別なミサイル攻撃により、子どもやお年寄りといった非戦闘員までもが犠牲になっております。また、電力施設への攻撃により各地で停電が発生し、多くの国民が、極寒の中での生活を強いられております。本市では、この軍事侵略の戦禍から逃れるウクライナの方を支援するため、市営住宅への避難民受け入れや募金活動などを実施してまいりました。私は、一刻も早い侵略の終結と対話による平和的解決を強く望んでおります。

また、ロシアによるウクライナ侵略などに端を発した原油価格や原材料価格の高騰など、国内外の社会経済情勢は、極めて不安定かつ不透明な状況でございます。

本市では、こういった社会経済情勢の変化に伴う、事業者の経済的負担を軽減するため、支援金の支給を行なってまいりました。

さらに、世界各地で地球温暖化が主な原因と言われている自然災害が頻発しており、6月には県内北部・東部地域で激しい雨や降ひょう、突風が発生し、本市においては、埼玉県の特例災害に指定されるほど、農作物に甚大な被害をもたらしました。

このことから、本市では、被害に遭われた農家の方々に対し、次期作の種苗代などへの補助や、ガバメントクラウドファンディングによる支援のほか、関係団体と連携し、収穫期を迎え被害の大きかったトウモロコシを「訳あり品」として販売したところ、多くの人々に購入いただくなど、皆様の善意に支えられ、本市の基幹産業である農業を支援することができました。

また、12月に発生した高病原性鳥インフルエンザにつきましても、県と協力して、早期収束に向けて対応を行なうとともに、養鶏農家への緊急支援を実施するなど、市をあげて対策を講じてまいりました。

そして、国内での感染者が確認されてから、すでに3年が経過した新型コロナウイルス感染症は、依然、私たちの社会経済活動に大きな影響をもたらしております。

このような中、今もなお、医療現場の最前線で新型コロナウイルス感染症の治療にご尽力いただいている医療従事者の皆様をはじめ、感染防止対策の徹底にご協力いただいております市民の皆様や市内事業者の皆様に、深く感謝申し上げます。

市といたしましても、国の動向を踏まえ、ワクチン接種や自宅療養者に対する支援など、適切に取り組んでまいりますので、今後ともご理解ご協力を賜りたいと存じます。

一方で、この新型コロナウイルス感染症対策は、各種感染拡大防止対策を徹底することで、行動制限を緩和しつつ、日常生活や社会経済活動を継続する、いわゆる「ウィズコロナ」の社会となっています。

このような状況を踏まえ、これまで新型コロナウイルス感染拡大防止の観

点から開催を中止してきた、深谷七夕まつりや深谷市産業祭などの各種イベントを、多くの関係者のご理解とご協力のもと3年ぶりに開催でき、これまでにないほどの笑顔と賑わいの場を作り出すことができました。

そして何より最も大きな出来事は、本市のさらなる発展に向け、花園インターチェンジ拠点整備プロジェクトとして進めてまいりました、農業と観光を基軸とした人を呼び込む起爆剤となる「深谷テラスパーク」、「ふかや花園プレミアム・アウトレット」、「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」がオープンを迎えたことであります。

「深谷テラスパーク」では、本市特産の野菜や花をモチーフとした大型遊具で多くの子どもたちが遊び、元気な笑顔と笑い声があふれており、円形広場ではマルシェや大型モニターを利用した動画の上映など、多くの方々に施設を活用していただき、楽しみながら、ふかやの魅力に触れていただいております。

「ふかや花園プレミアム・アウトレット」では、「地域と共生」をコンセプトに、レンガや豊かな自然、ユリをはじめとする本市名産の花々がデザインされた、周辺環境と調和した空間の中で、県内外から多くの人々が訪れ、ショッピングを楽しむことができます。また、「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」では、収穫体験やレストランでの食事などを通じ、深谷産の野菜に触れ、五感を通して「ふかや」を感じられます。

このように、本市の特色を生かし、地域に密着した新しい観光拠点がオープンを迎えられたことを大変うれしく思うとともに、これまでご協力いただいた関係者をはじめ、議員の皆様、市民の皆様、市内企業の皆様のご理解と

ご協力があってこそ実現できたものと実感しており、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

これらの施設のオープンは、本プロジェクトのゴールではなく、新たなスタートであります。これらの施設を訪れた方々に市内を回遊していただき、様々な「ふかや」の魅力に触れて楽しんでいただくことで、本市の発展につながるということが重要であると考えております。今後、ベジタブルテーマパークをはじめとした様々な回遊策を講じ、本市全体の発展につなげてまいります。

さて、去年は、イベントや施設オープンの盛り上がりにとどまらず、本市ゆかりの人物が、注目を浴びた1年でもございました。

令和3年の大河ドラマ「青天を衝^つけ」の主人公であり、令和6年度発行予定の新一万円札の肖像となる、郷土の偉人渋沢栄一翁からは、その思想と精神を継承した企業人の育成を目的とした「渋沢栄一ひとづくりカレッジプロジェクト」などを通じて、多くの企業、団体との繋がりやチャレンジする精神の大切さを教えていただきました。

また、これまで関係団体の皆様とともにその遺^{いとく}徳を偲び、後世に伝えていくため顕彰に取り組んでまいりました畠山重忠公が、栄一翁からバトンを受け継ぐ形で、去年の大河ドラマ「鎌倉^{どの}殿の13人」に歴史を彩る登場人物の一人として描^{えが}かれました。

この大河ドラマの放送を通じて、清^{せい}廉^{れん}潔^{けつ}白^{ぱく}な人柄で武勇に優れ、武蔵武士の鑑^{かがみ}と称^{たた}えられたその雄姿を、全国の皆様に発信することができました。

12月には、重忠公ゆかりの8つの自治体が深谷テラスパークに集結し、郷土芸能が披露されるとともに、地場産の農水産物の販売が行われるなど、多

くの来場者に楽しんでいただくこともできました。

郷土の偉人である、渋沢栄一翁、そして畠山重忠公の生き様からは多くの学びがあり、全国のゆかりの自治体と連携し、その思想と功績をさらなる地域振興にしっかりと生かしてまいります。

さらに、昨年注目を浴びた、本市にゆかりのある人物は、歴史上の人物だけではございませんでした。昨年3月に開催された北京パラリンピックでは、深谷市親善大使を務める^{むらおかももか}村岡桃佳選手が、アルペンスキー競技の5種目に出場し、金メダル3個、銀メダル1個を獲得する素晴らしい成績を収めました。そして、昨年4月には、本市において凱旋パレードを開催し、たくさんの方と、この偉業とその喜びを共有することができました。

また、スノーボード競技において、日本代表最年少選手として出場した^{いちかわたかひと}市川貴仁選手も、2種目で入賞するなど、好成績を収めました。両選手は、大きな夢を抱き、その実現に向けて具体的な目標を定め、日々の厳しい練習の中で努力を積み重ねたことはもちろんのこと、周りの人々の支えがあったからこそ、このような素晴らしい結果を残すことができたのだと思います。

私は、まちづくりにおきましても、同じことが言えると考えております。渋沢栄一翁や、畠山重忠公が全国規模で注目を集めていること、ふかや花園プレミアム・アウトレットをはじめ新しい観光拠点がオープンしたこと、そして、市役所通りやレンガ通りが開通し、新たなまち並みが形作られてきたことは、皆様のご協力のもと積み上げてきたこれまでの取組が、実を結び始めたものと実感しております。

昨年12月議会におきまして議決をいただきました「第2次深谷市総合計

画後期基本計画」では、「誰一人取り残さない みんながうれしい ふかや」を基本方針として掲げました。ここには、「一人ひとりの市民のみならず、団体や企業も含め、みんなで助け合い、そして誰もが住みやすく、笑顔があふれるまちづくりを進めていこう」という思いを込めております。この大きな目標の実現に向け、今後も、将来を見据えた日々の積み重ねを大切にしながら、全力で市政の発展に邁進^{まいしん}する所存でございます。

それでは、議会開会の冒頭にあたり、私の市政運営に臨む基本的な姿勢を申し述べたいと存じます。

本市では、平成30年度から5年間を計画期間とする「第2次深谷市総合計画前期基本計画」に基づき、各種施策を展開し、本市の将来都市像「元気と笑顔の生産地 ふかや」の実現に向け取り組んでまいりました。この間、本市を取り巻く社会状況は大きく変化し、特に新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、市民の皆様の日常生活をはじめ、社会・経済状況にも大きな影響を与えることとなりました。

このように想定し得ない事態や新たな課題に直面する状況においては、時代潮流の変化や市民ニーズを的確に捉え、迅速に対応する市政運営が求められます。

本市が将来にわたって持続可能なまちづくりを行なっていくために、市民生活に寄り添い、環境・社会・経済状況の変化に柔軟かつ機敏に対応するなど、皆様とともに積極的に市政運営に取り組む所存でございます。

その具体的な考えや取組は、新たなまちづくりの指針である「第2次深谷

市総合計画後期基本計画」に掲げたところであり、次の5つの主要プロジェクトをはじめとした各種施策の実施により、深谷の輝かしい未来へ力強く歩みを進めてまいります。

第1に、「渋沢栄一を核としたひとづくりプロジェクト」でございます。

人口減少や地域経済の縮小、地域活力の低下など、本市を取り巻く状況は厳しいものとなっていきます。このような中、持続可能な社会づくりの目標であるSDGsと郷土の偉人である渋沢栄一翁の理念との親和性^{しんわせい}が、改めて注目を集めており、本市の持続的な発展に向け、栄一翁の精神^{こんにち}を今日に生かし、後世へと継承していく必要がございます。

そのため、未来を切り開く人材をつくる「渋沢栄一ひとづくりカレッジプロジェクト」を推進するほか、現代のSDGsにも通じる栄一翁の理念を取り入れた、SDGs未来都市計画を策定し、深谷版SDGsを確立してまいります。また、旧渋沢邸「中の家」^{なかんち}の耐震補強工事完了後には、主屋の内部を初めて公開するなど、渋沢栄一翁関連施設のさらなる利活用を図り、栄一翁の理念を継承する人づくりにつなげてまいります。

第2に、「農業の強みを生かした産業振興プロジェクト」でございます。

本市の産業は、農・商・工のバランスが取れており、とりわけ、農業は本市にとって基幹的な産業でございますが、農業従事者の高齢化や担い手不足などの課題が顕在化しております。このことから、農業と観光の連携を図るとともに、農業の強みを生かした産業振興の取組を推進していく必要がございます。

そのため、昨年オープンしたふかや花園プレミアム・アウトレットをはじめ

めとした集客施設と、野菜をテーマとした市内の観光回遊を促進するデジタルテーマパークなどの取組により、農業と結びつけた、本市らしい観光コンテンツを発信してまいります。また、農業先進都市を目指し新たな企業誘致の推進を図るアグリテック集積など、農業の強みを生かした産業の活力創出に取り組んでまいります。

第3に、「「ふかや」の魅力を生かした移住定住推進プロジェクト」でござい
ます。

本市の人口は、緩やかな減少局面に入っております。また、年少人口・生産年齢人口が減少する一方で、高齢者人口は増加傾向にあり、少子高齢化が進行しております。人口減少と少子高齢化は、地域の活力低下のみならず、人と人との支え合いなど福祉の面でも大きな影響を及ぼします。

そのため、幼稚園・こども館複合施設の建設など、子育て環境の整備や出産祝い金の支給、さらには県内初の取組として今年度から実施している、第2子以降の保育料無償化を第1子まで拡大し、保育料の完全無償化を実施するなど、本市独自の経済的支援を行い、地域の子育て支援の充実を図ってまいります。

また、ふかやの特色を生かした移住策を推進するため、農地付き空き家の活用や、本市の魅力を伝えるプロモーション活動を実施するほか、移住希望者を経済的に支援する制度を新たに構築し、子育て世代を中心とした転入促進、転出抑制に取り組んでまいります。

第4に、「行政デジタル化推進プロジェクト」でございます。

新型コロナウイルス感染症の流行は、日常生活や社会・経済、人と人との

つながりのあり方に大きな変容をもたらしました。こうした中、デジタル・トランスフォーメーションの推進により、市民の利便性を高めるとともに、行政の働き方改革の推進、地域の人材不足解消など、全ての人々がデジタル化の価値を享受できる社会を実現する必要があります。

そのため、スマートフォンやご自宅のパソコンからインターネットを介して手続きができる、各種オンラインサービスの窓口を充実するほか、マイナンバーカードの普及促進を図り、いつでも、どこでもつながることができるスマートな市役所を実現してまいります。

また、来庁時の滞在時間の短縮など市民サービスの向上や非接触化を図るため、「書かない窓口」などを推進するとともに、誰でもデジタル化の恩恵を受けられるよう、オンライン接続スポットの整備を進めてまいります。

第5に、「ゼロカーボンシティ推進プロジェクト」でございます。

全国的に地球温暖化に起因すると考えられる自然災害が頻発し、地球規模での環境問題が深刻化している中、気候変動の課題解決に向けて、世界中の市民や企業、行政などすべての主体の意識変革と行動が求められております。

本市においても、「ゼロカーボンシティふかや」宣言に基づき、環境を取り巻く情勢の変化に対応しながら、市民の安全・安心な暮らしの基盤となる環境の保全に向けた取組を推進していく必要があります。

そのため、地域新電力などとの連携により、エネルギーの地産地消を推進するほか、脱炭素推進のため、住宅用省エネ設備補助制度の拡充や、クールチョイスの推進など、家庭や企業における二酸化炭素削減の取組を促進してまいります。

また、自転車や公共交通機関の利用や、自然環境への負荷が少ないエコカーの利用など、環境に配慮した移動手段の普及を図るとともに、ごみの削減に向けた取組など、循環型社会の実現に向け、市民団体・企業・大学などと連携し、環境教育を推進してまいります。

以上、これら5つの主要プロジェクトを先導的・重点的に推進し、本市の未来を自らの手で積極果敢に切り拓いていく強い気持ちで、令和5年度のスタートを切ってまいりたいと存じます。

それでは、本日ご提案いたします「令和5年度当初予算案」の概要につきましてご説明申し上げます。

まず、歳入の根幹である市税につきましては、景気動向や花園インターチェンジ拠点整備プロジェクトによる効果などを踏まえ、180億円台を見込んでおります。

一方、歳出につきましては、医療や福祉などに係る扶助費の伸び、さらには新型コロナウイルス感染症の長期化の影響や原油価格・物価の高騰等への課題対応により、増加傾向にあります。

このような状況下ではありますが、令和5年度は、第2次深谷市総合計画後期基本計画の初年度となることから、その基本方針である「誰一人取り残さない みんながうれしい ふかや」の実現に向け、各施策を力強く推進するための予算を編成したところであります。

その結果、令和5年度の予算案は、一般会計では540億7,137万5千円、前年度に比べ3.4%の増、特別会計及び企業会計では306億7,

700万3千円、前年度に比べ1.6%の減となったところであります。

令和5年度一般会計予算案の主な内容であります。まず、歳入のうち市税につきましては、187億8,348万3千円、前年度に比べ4.1%の増を見込んだところであります。また、地方交付税につきましては、79億8,500万円、前年度に比べ17.7%の増を見込んだところであります。

なお、各種基金からの繰入金や市債につきましては、事業執行のために所要の金額を見込んだところであります。

次に、歳出の主な内容でございますが、第2次深谷市総合計画後期基本計画に掲げた「まちのイメージ」に沿って、ご説明申し上げます。

はじめに、子育て・保健・福祉の分野「健康でいきいきと暮らせるまち」について申し上げます。

子育て支援に関しましては、令和4年度に県内初として開始した第2子以降の保育料無償化を、さらに第1子まで拡大し、保育料の完全無償化を実施してまいります。また、まちの未来を築くこどもの誕生を祝し、引き続き第1子に5万円、第2子以降に3万円を地域通貨「^{ネギー}negi」で支給し、子育て世代のさらなる経済的な負担軽減を図ってまいります。

さらに、子どもたちが安心して遊ぶことができ、保護者同士が交流できるこども館の建設を進めてまいります。

健康づくりに関しましては、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制を確保し、安心して妊娠、出産、育児が行えるよう、赤ちゃん相談事業やマタニティ教室の開催、また、妊産婦健診、新生児聴覚スクリーニング

検査の実施、産後ケア事業を引き続き実施してまいります。

また、ワクチン接種による発症予防効果が高いとされている^{たいじょうほうしん}帯状疱疹ワクチン、おたふくかぜワクチンの接種費用の助成を新たに行なってまいります。

地域福祉に関しましては、生活困窮者自立支援事業の一環として、「子どもの学習・生活支援事業 未来応援教室 ぱるスタ」を拡充し、子どもたちの学習機会や居場所づくりをさらに進めてまいります。

高齢者福祉に関しましては、皆様が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けていけるよう、住宅改修補助制度など、高齢者の在宅生活を継続するための支援を実施いたします。また、成年後見人等への報酬を支払うことが困難な方に助成を行なうほか、高齢者福祉政策を効果的・効率的に推進するため、深谷市高齢者福祉計画の見直しを行なってまいります。

障害者福祉に関しましては、引き続き、医療費の助成や各種手当の支給、日常生活用具の給付のほか、安全に暮らすための住宅改修に係る補助など、社会生活、日常生活の支援により、障害者の自立に向けた支援を行なってまいります。

地域医療に関しましては、地域医療のさらなる充実を図るため、深谷赤十字病院における放射線治療装置の更新を支援してまいります。

続きまして、教育・文化の分野「次代を担う人と文化を育むまち」について申し上げます。

幼児教育に関しましては、引き続き、全ての幼稚園で、3歳児からの受け入れや、一時預かり及び長期休業中の預かり保育の実施、給食の提供を行な

ってまいります。また、こども館との複合による幼稚園の建設を進めてまいります。

学校教育に関しましては、より一層 I C T を活用した効率的な学習ができるよう、校外学習でもインターネットに接続できる環境を整備してまいります。

また、生徒の技術向上及び教員の負担軽減を図るため、部活動指導員を増員するほか、学力向上及び不登校児童生徒への支援などを行う学校総合支援員や、特別な支援を必要とする児童生徒を支援するためのインクルーシブ支援員及び特別支援補助員の増員を行なってまいります。

さらに、「ふるさと・ふかや・渋沢学」フォーラムを開催し、ふるさと教育の充実を図るとともに、地域社会、関係機関と連携したフィールドワークの広がりや体験の場を充実させ、「持続可能な社会の担い手」を育ててまいります。

学校施設の整備に関しましては、子どもたちの学習及び生活の場として、より快適に過ごせる環境を提供するため、大寄小学校及び上柴中学校のトイレ洋式化のための設計を行なうとともに、上柴西幼稚園のトイレ改修設計を行なってまいります。

公民館に関しましては、あらゆる世代の方が集い、新たな交流につながる場を創出できるよう、川本公民館、もくせい館、川本図書館及び川本総合支所の機能を併せ持つ複合施設を建設いたします。

文化振興に関しましては、国指定の重要文化財である旧煉瓦製造施設ホフマン輪窯 6 号窯の保存修理工事を引き続き行なうとともに、市内外からの集

客を見据えて駐車場を整備してまいります。また、幡羅官衙遺跡^{はらかんがいせき}につきましては、公有化に向けて関係機関と調整を図ってまいります。

渋沢栄一翁関連事業に関しましては、新一万円札発行前イベントを実施し、渋沢栄一翁顕彰の全国的な機運をさらに盛り上げてまいります。

また、道徳と経済を両立させた経営者から実践の知恵を学び、本気で「ひとづくり」に挑戦する同志が学び舎^{まなびや}に集い、未来を切り開く人材を育成するため、経営者や起業を目指す方などを対象に、「渋沢栄一ひとづくりカレッジ」を開催します。

さらには、旧渋沢邸「中の家」^{なかんち}の主屋の補強耐震工事を進め、主屋内部で、渋沢栄一アンドロイドと映像を組み合わせた仮想現実空間を創出するなど、栄一翁を身近に感じ、楽しみながら学ぶことのできる集客施設として、広く公開してまいります。

続きまして、産業振興の分野「活力とにぎわいにあふれるまち」について申し上げます。

産業振興に関しましては、本市の産業の強みである農業を基盤として生かし、「儲かる農業都市ふかや」の実現に向けた取組を、継続して展開してまいります。

アグリテック集積の取組に関しましては、戦略の実行5年目にあたり、これまで注力していた農業課題を解決する技術の発掘^{はっくつ}・錬磨^{れんま}、そして実装^{じっそう}の段階に加え、アグリテック企業と農家のマッチングを進めるなど、アグリテック企業誘致をさらに進めてまいります。

具体的には、企業が集まり交流が生まれる場所として、アグリテック交流拠点を設置し、コーディネーターによる、農家と企業及び企業間の連携、日常的な交流会の実施など、効果的な企業集積策を実施してまいります。

地域通貨の取組に関しましては、引き続き地域内経済循環の向上を図るとともに、市民や団体の行動変容を促す動機付けとして活用することにより、行政だけで解決することのできない課題解決を図ってまいります。

産業振興や特産物のPRに関しましては、「全国ねぎサミット」を本市主催として深谷テラスパークで開催し、各産地自慢のねぎの魅力を広く発信することにより、安全安心な国産ねぎとしての認知度向上及び消費の拡大を図ってまいります。

また、市役所のレンガコリドーにおいて、「コリドーカフェ」や「農業王国ふかやマルシェ」などのイベントを定期的で開催し、市内商工業者の魅力の向上や利用の促進を図るとともに、深谷産の農畜産物や特産物などをPRしてまいります。

農業経営への支援に関しましては、農業経営者の所得の安定及び持続的な地域農業の発展を図るため、収入保険への新規加入時における保険料の一部を補助してまいります。

また、農業者の安定経営、販売流通の確保を支援するため、国際水準^{ギャップ}GAAPの認証を新規に取得する農業者を支援してまいります。

観光振興に関しましては、「北の渋沢栄一翁関連施設」、「南のアウトレット」を基軸とし、各施設に訪れたお客様が、市内に観光回遊していただけるよう、ふかやの魅力を楽しみながら景品を手に入れることができる「ぐるっと深谷

ガチャ」や、体験型プログラムを提供する「深谷えん旅」などを実施し、まちの活性化につなげてまいります。

続きまして、暮らし・環境の分野「安心とやすらぎを感じられるまち」について申し上げます。

防災対策に関しましては、緊急性の高い防災情報などについて、自動で電話をかけ、音声で情報を伝えるサービスを新たに導入し、防災行政無線が聞こえにくい場所や、スマートフォンを持っていない方にも、正確に情報が伝わる仕組みを構築してまいります。

また、屋内外で安定した通信を行なうことができる I P 無線機を増やし、災害に備えてまいります。

消防・救急体制に関しましては、複雑、多様化する各種災害に対応するため、花園消防署に救助工作車と資機材車の用途を併せ持つ支援車を新規に導入してまいります。

また、川本分署の水槽付消防ポンプ自動車や、深谷消防署と上柴分署の高規格救急自動車及び高度救命処置用資機材をそれぞれ更新し、消防力の強化及び救命率の向上を図ってまいります。

防犯に関しましては、青色防犯パトロール活動をはじめとした地域住民による自主的かつ組織的な地域防犯活動を積極的に支援し、防犯のまちづくりを推進してまいります。

空き家対策に関しましては、農地付き空き家を購入し市外から移住する方に対し、空き家の改修費用の一部を補助することにより、空き家と遊休農地

の解消や、市外からの移住促進を図ってまいります。

また、空き家の除却費用の負担が難しい低所得者等に対して、危険性のある空き家の除却費用の一部を補助してまいります。

さらに、特定空き家を解体することにより、地域の安全、安心を確保し、住環境の改善を図ってまいります。

自治会活動に対する支援に関しましては、自治会館の改修費用及び空調設備工事費用を補助するとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、地域活動の実施が困難な状況が続く中、地域コミュニティを維持していくため、これまで以上に自治会の皆様と連携し、地域コミュニティの醸成^{じょうせい}を図ってまいります。

環境対策に関しましては、本市の目指すべき環境の姿を実現するため、「深谷市環境基本計画」を、地球温暖化対策実行計画区域施策編、事務事業編及び気候変動適応計画を包含した形で策定し、各種施策を推進してまいります。

また、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティふかや」宣言に基づき、住宅用省エネ設備やEV車などの購入に対し補助するほか、リサイクル活動推進奨励金をオンラインで申請した場合に、上乗せをした奨励金を付与してまいります。

また、環境に配慮した公用車を導入するなど、皆様とともに地球温暖化防止対策を行なってまいります。

続きまして、都市・生活基盤の分野「快適で利便性の高いまち」について申し上げます。

市街地整備に関しましては、誰もが暮らしやすい快適な生活環境の実現と、人口減少社会に対応した持続可能なまちづくりを目指し、都市計画マスタープランや立地適正化計画に基づき、計画的にまちづくりを進めてまいります。

土地区画整理事業に関しましては、中央地区において、本市の新たなシンボルロードでもあるレンガ通りを、令和6年度の新一万円札発行までの完成にむけて、引き続き整備してまいります。

また、国済寺地区におきましては、引き続き街路などの都市基盤整備を実施し、快適な居住環境の形成を図ってまいります。

水道の整備に関しましては、引き続き老朽管の更新を進めるとともに、皿沼浄水場の更新が完了したことに伴い、新たな運用を進めてまいります。

下水道の整備に関しましては、岡部地内及び小前田地内の污水管布設工事を引き続き進めるとともに、八幡^{はちまん}地区の下水道整備に着手してまいります。また、深谷市下水道ストックマネジメント計画に基づき、浄化センターの老朽化対策工事を進めてまいります。

農業集落排水の整備に関しましては、大谷地内の処理施設改修工事を引き続き実施するとともに、令和6年度の供用開始に向けて大谷西地区、かしあい地区の公共下水道への接続工事を進めてまいります。

道路の整備に関しましては、国済寺地区と上柴地区の交通の円滑化を図るため、引き続き原郷上野台線の整備に係る雨水管の切り回し工事を進めるとともに、線路下の横断工事を進めてまいります。

また、深谷テラスやふかや花園プレミアム・アウトレットがオープンし、ふかや花園駅の利用者が増加したことに伴い、ふかや花園駅駅前ロータリー

やポケットパークの植栽管理を行い、深谷のイメージアップを図るとともに、深谷の観光拠点の玄関口としてふさわしい環境を整備してまいります。

橋りょうの整備に関しましては、深谷市橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、原郷歩道橋や、かみはら陸橋など、優先度の高い橋りょうから計画的に修繕を実施してまいります。

河川の整備と排水対策に関しましては、引き続き大堀川の改修工事を実施するほか、高畑地区に設置されている排水ポンプの更新や、豊里地区の雨水調節池ちようせつちの用地取得などにより、排水能力の向上を図り、地域住民の安全・安心な生活の確保を行なってまいります。

また、利根川水系連合総合水防演習を実施し、時代や社会に適した水防活動の実践及び地域の水防活動への意識向上を図ってまいります。

公共交通に関しましては、地域住民の移動手段であるコミュニティバス「くるリン」を引き続き運行していくほか、令和7年度の新運行に向けた地域公共交通計画を策定してまいります。また、岡部駅の利便性の向上を図るため、岡部駅橋上駅舎化の早期実現に向け、関係機関との協議を進めてまいります。

最後に、協働・行政経営の分野「みんなで創る協働のまち」について申し上げます。

人権の推進に関しましては、多様性の理解不足による差別や偏見などの課題に対応していくため、「深谷市性的指向及び性自認の多様性を理解し尊重する社会の推進に関する条例」に基づき、関係機関と連携し各種取組を行な

ってまいります。

情報発信に關しましては、「渋沢栄一^{イコール}＝深谷市」というイメージを定着させ、渋沢栄一翁や深谷市の認知度の向上及びイメージアップを図るため、令和6年度予定の新一万円札発行を見据えながら、各種メディアを通じて全国にプロモーション活動を行なってまいります。

協働のまちづくりに關しましては、市民活動サポートセンターや、深谷市人材バンクに登録されている市民の皆様を動画で紹介するウェブサイト「^{わざ}技^{かつ}活」を通じて、人と人をつなぎ市民活動の支援をさらに促進するとともに、深谷にまつわる人・物・活動を自由に発表し、PRする場として運営されているウェブサイト「^{ふっかつ}深活」のさらなる活用を図ってまいります。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため令和2年度以降中止しておりました「ふかや花フェスタ」を、深谷テラスパークをメイン会場として開催するとともに、市内各所でオープンガーデンを開催し、市内回遊につなげてまいります。

持続可能な行政運営に關しましては、深谷市公共施設適正配置計画に基づき、旧藤沢分署及び旧新戒文化財倉庫の建物解体条件付きのマイナス入札及び旧仙元荘の解体工事を実施してまいります。

また、市民の皆様のご利便性の向上を図るため、マイナンバーカードの出張申請サポートを実施するほか、いつでもどこでも、各種行政サービスの窓口につながるができるよう、プッシュ型発信のアプリを活用し、皆様に必要な情報をお届けしてまいります。

さらに、ICTなどのデジタル技術を活用することで、業務の効率化や経

費節減に努め、スマートな市役所を実現してまいります。

以上、歳出の主な内容につきまして、ご説明いたしました。

渋沢栄一翁は、「すべて世の中の事は、もうこれで満足だという時は、すなわち衰^{おとろ}える時である」という言葉を残しております。

これは、成長し続けるためには、現状に満足してはいけないという意味ととらえております。

本市においては、新庁舎の建設により防災中枢拠点が整備され、市役所通りやレンガ通りなどの土地区画整理事業も進展しました。そしてついに、花園インターチェンジ拠点整備による新たな観光拠点がオープンし、これまでの積み重ねが実を結び、今まさに真っ白なキャンバスに線^{えが}を描くことができたところでございます。

令和5年度は、これからの5年間の本市のまちづくりの指針である「第2次深谷市総合計画後期基本計画」がスタートいたします。

私は、これまでの成果に満足することなく、この線^{えが}を描いたキャンバスに、市民の皆様とともに新たな彩りを加え、「誰一人取り残さない みんながうれしい ふかや」を実現するため、議員並びに市民の皆様とともに歩みを進めてまいりたいと存じますので、より一層のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

以上で私の令和5年度施政方針の表明といたします。

※この文章は口述筆記ではありません。

表現その他に若干の変更がありました場合は、ご了承ください。

